

ヨハネ受難曲は、1724年、ライプツィヒの聖トーマス教会での礼拝のためにヨハン・セバastian・バッハが作曲した宗教音楽の傑作。新約聖書「ヨハネによる福音書」に描かれたキリストの受難の物語をもとに、独唱・合唱・管弦楽が一体となってドラマティックに描かれた作品である。イエスが捕らえられ、裁かれ、十字架につけられるまでの出来事を、テノール独唱の福音史家が語り、イエス役やピラト役などが対話を交わし、その合間にソプラノやアルトの aria が挿入され、信徒の心の祈りや思索が豊かに表現される。合唱は愚かな群衆の叫びや信仰のコーラールを担い、怒りと静寂、苦悩と希望が交錯するバッハならではの深い精神性が息づく。同じ題材の「マタイ受難曲」に比べ、「ヨハネ受難曲」はより劇的で緊張感に富み、冒頭と終結の大合唱は圧倒的な荘厳さをもって聴く者を包み込む。音楽と祈りがひとつに溶け合い、神の愛と人間の罪を深く問いかける作品である。

三澤 洋史 (みさわ ひろふみ) 指揮者・合唱指揮者・作曲家

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。指揮を山田一雄、ハンス＝マルティン・ラーベンシュタインに師事。1999年から5年間、「バイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年には、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座においてスカラ座合唱団の音楽作りを研修。2001年より2025年3月まで24年間、新国立劇場合唱団首席合唱指揮者を務めた。2025年4月からは新国立劇場桂冠合唱指揮者。2017年、新国立劇場合唱指揮者としての活動が評価され、JASRAC音楽文化賞を受賞。新国立劇場合唱団は、2018年度第31回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門、室内楽合唱部門受賞。愛知祝祭管弦楽団音楽監督として、ワーグナー作曲「ローエングリン」「トリスタンとイゾルデ」「ニーベルングの指環」全4部作、「パルジファル」を上演。「名古屋音楽ペンクラブ賞」を受賞。作曲家として、ミュージカル「おにころ」「愛はしてしく」「ナディーヌ」、Cantico delle Creature (被造物への賛歌)、Missa pro Pace (平和のためのミサ) などがある。バッハに傾倒し、東京バロック・スコラズの音楽監督として、沢山の演奏会を指揮。「モテット集」のCDはレコード芸術で準特選に選ばれた。2024年7月20日、イタリアのアッシジの聖フランシスコ聖堂にて、自作の宗教曲だけで演奏会を開いた。そのためにアシジ祝祭合唱団を結成。洗礼名は聖フランシスコ。著書に「オペラ座のお仕事」(早川書房)、「ちょっと お話していいですか」(ドン・ポスト社)がある。京都ヴェルディ協会理事、日本ワーグナー協会評議員。聖グレゴリオの家、宗教音楽研究所理事。1990年4月より35年に渡って浜松バッハ研究会常任指揮者を務めている。



澤武 紀行 (さわぶ のりゆき) テノール

桐朋学園大学を首席で卒業。同大学研究科を修了後、国際ロータリー財団 2610 地区より国際親善奨学生に選出され、オーストラリア・ザルツブルクへ。モーツァルト音楽大学で学んだのち、ブルックナー音楽大学オペラ科へ編入し卒業。在学中、ドイツ・ハウツェンベルク音楽祭にてモーツァルト《後宮からの逃走》ベルモンテ役でヨーロッパ・オペラデビュー後、ベルリン国立歌劇場、フォアボンメルン州立劇場など、名門劇場・音楽祭に出演。バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、バッハ《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》の福音史家は、「形式を守りながらも祈りに満ちた劇的な表現で聴衆を深く揺さぶる、次代の新しい福音史家」と称賛されている。NHK 富山・北日本放送、東京 MX『5時に夢中!』などに出演。作曲家としても活動し、大伴家持の詩に作曲した作品を、上皇上皇后陛下御前演奏で自ら歌唱。射水市立湊中学校、放生津小学校などの校歌を作曲。現在、富山銀行オフィシャルパートナー、KNB ラジオ「夢見るクラシック」ナビゲーター、「とれたてのワイド朝生 木曜日」「フアイデースペシャル～澤武紀行のこのドイツだ!～」のパーソナリティー。氷見第九総監督、氷見市国際芸術文化交流大使、富山県警交通安全うたごえ大使、いみず PR 大使。とやま賞、射水市市政功労賞、北日本新聞芸術選奨などを受賞。



飯田 みち代 (いいた みちよ) ソプラノ

ソプラノ歌手。日本国内では、日生劇場と東京二期会周年記念オペラ「ルル」「メデア」「アイナダマール」、びわ湖ホール周年記念オペラ「死の都」、サントリーホール周年記念オペラ「パン屋大襲撃」など日本を代表する劇場の記念公演の数々に主演し、高い評価を受け公演の芸術大賞受賞に寄与。批評家たちにより、「音楽の友」誌上で世界のディーヴァベスト100に選ばれ、「陰陽自在な発声で多層の女性像を魅力的に描き出す驚くべき才能(音楽現代誌)と絶賛された。海外でも演奏の評価が高く、イタリア、アメリカ、ドイツ、オーストラリア、フランス、ハンガリーに何度もソリストとして招聘されている。京都大学卒業、愛知県芸術選奨受賞他受賞多数、春日井市広報大使。



三輪 陽子 (みわ ようこ) メゾソプラノ

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストラリアに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。宗教曲ではヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「ハ短調ミサ」「レクイエム」、バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、ヴェルディ「レクイエム」などアルトソロとして出演。クロアチア、ウィーン、ベルリン、チェコにて海外公演に出演。二期会会員。



加藤 宏隆 (かとう ひろたか) バス

袋井市出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。ジョーンズ・ホプキンス大学ビーボディ音楽院修士課程、及びインディアナ大学ジェイクオブズ音楽院ディプロマ課程修了。帰国後は東京二期会や日生劇場などのオペラに多数出演。東京・春・音楽祭ではソリストとしてリカルド・ムーティ氏と共演。2023年12月読売日本交響楽団「第九」ではバスのソロを務めた。またバッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとして国内外の演奏会への参加等、宗教音楽の分野での活躍も目立つ。二期会会員。



谷口 洋介 (たにぐち ようすけ) テノール

国立音楽大学声楽科卒業。1998年以降、バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして国内外の数多くの演奏会や録音などに参加し、現在もソリストおよびコーラス主要メンバーとして活躍中。2002年、ソプラノ歌手の鈴木美登里を主宰として声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」を結成。モンテヴェルディのマドリガーレ全曲など発売された CD は常に高い評価を得ている。バッハの諸受難曲におけるエヴァンゲリストや、ヘンデルのメサイアなど宗教曲ソリストとして安定した歌唱に定評がある。また、ワーグナーの歌劇「ローエングリン」でタイトルロールをつとめるなど、オペラでの活躍も注目されている。



初鹿野 剛 (はつかの たけし) バス

御殿場市出身。清水南高芸術科を経て、東京芸術大学、カールルーエ音楽大学から修士号を授与される。文化庁派遣芸術家在外研修員。コンサートにおける交響曲・管弦楽曲・宗教曲の独唱者だけでなく、オペラの分野においてもラインスベルク等のドイツ主要音楽祭、日本では、新国立劇場・日生劇場・兵庫 PAC・東京二期会等の各プログラムで活躍。日本音楽コンクール入選、「ヴァーグナーの声」国際声楽コンクール入選、五島記念文化賞オペラ新人賞等受賞多数。第1回浜響ソリスト・オーディションに合格、浜松交響楽団と共演。2014年に愛知県立芸術大学に教員として赴任。二期会会員、日本演奏連盟会員。浜松バッハ研究会とはドイツ演奏旅行以降、度々共演。



川原 千真 (かわはら ちま) コンサートマスター

東京芸術大学および同大学院修了。読売新人演奏会出演。「古典四重奏団」として村松賞、文化庁芸術祭大賞、同優秀賞、JXTG 音楽賞(旧モビール賞)奨励賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞、ショスタコーヴィチ全集 CD にてレコードアカデミー賞と文化庁芸術祭大賞の W 受賞。「音楽三昧」としてサライ賞 CD・DVD 部門賞受賞、バロックヴァイオリンによる J.S.バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲 CD リリース(「レコード芸術」誌特選選)。ジャン・マリ・クルーレル/ヴァイオリンソナタ 49 曲全曲演奏会を 26 年 2 月に完遂。



内山 美穂 (うちやま みほ) オルガン

広島エリザベト音楽大学バイブルガンコース修士課程修了。ベルギー王立音楽院ブリュッセル校およびオランダ王立音楽院マストリヒト校ブルミエブリ取得後卒業。ベルギーを代表する作曲家兼オルガニストの F・ペーターズ氏に師事。1984年セント国際オルガンコンクール最高位受賞。1992~1997年イタリアミラノ近郊アレーゼの Maria aiuto dei cristiani 教会のオルガニストを務める。日本オルガニスト協会会員。カトリック鷺の宮教会オルガニスト。浜松聖星高等学校宗教科非常勤講師。



羽川 恵子 (はがわ けいこ) ヴィオラ・ダ・ガンバ

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。同大学院修士課程音楽研究科チェロ専攻修了。藝大室内楽定期演奏会に出演。原村室内楽セミナーに於いて録の風音楽賞優秀賞受賞。チェロを故三木敬之、菊田雅治の各氏に師事。ヴィオラ・ダ・ガンバを櫻井茂氏に師事。市瀬礼子、酒井淳、M.マルティノ、M.リニョルの各氏のマスタークラスを受講する。J.S.バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、C.モンテヴェルディ「聖母マリアの夕べの祈り」に出演。PRISM consort of viols、森川麻子、波多野睦美、福島康晴、前田啓光の各氏と共演している。



浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル

バッハ生誕300周年の1985年に浜松地域のバッハ愛好家によって創立された合唱団と管弦楽団であり、姉妹団体・豊橋バッハアンサンブル(1994年創立)と共に「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ミサ曲短調」などの大作や「クリスマス・オラトリオ」「カンタータ」「モテット」などを取り上げ上演してきた。1990年以降バッハ演奏の権威である新国立劇場の三澤洋史氏を常任指揮者として招いている。2000~2001年にはバッハ縁の地を巡るドイツ演奏旅行を実施。バッハの聖地であるライプツィヒの聖トーマス教会やヘンデルが少年時代に学んだハレのマルクト教会などで演奏し、大好評を得た。

浜松バッハ研究会管弦楽団メンバー

ヴァイオリン-I: 川原 千真 木内 麻希子 長谷川 悠 前澤 陽 松嶋 朗生
 ヴァイオリン-II: 小沢 規子 田邑 利香 東儀 温 足田 清香
 ヴィオラ: 篠田 侑香里 小林 勝 松嶋 多恵
 チェロ: 神農 清志 立川 訓子
 コントラバス: 田邑 元一
 ヴィオラ・ダ・ガンバ: 羽川 恵子
 フルート: 木村 伊都子 続 真樹 オーボエ: 大橋 弥生 漆畑 孝亮
 ファゴット: 曾布川 利貞 オルガン: 内山 美穂